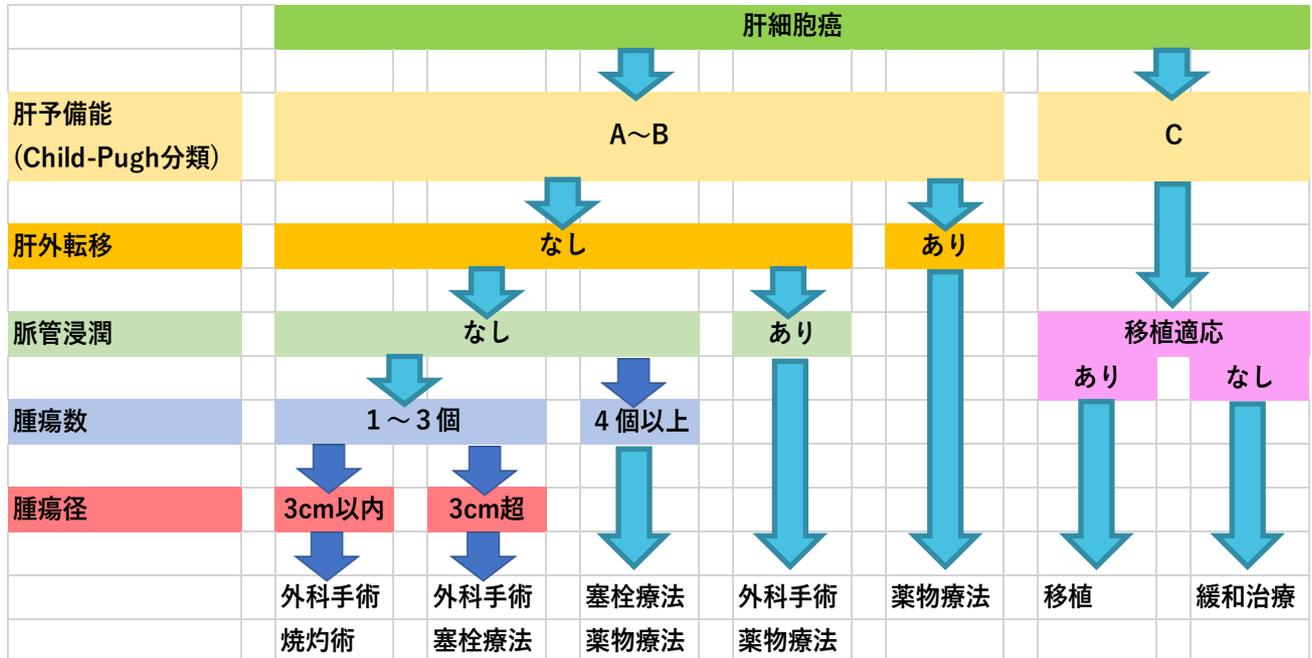


肝がんの治療アルゴリズム

肝がんの治療アルゴリズムは下記の図のように決められていきます。



まずは採血、画像検査(CT、MRI、腹部超音波)などから肝予備能を調べます。肝予備能は一般的にChild-Pugh分類と云う、アルブミン・プロトロンビン時間・総ビリルビン・腹水・脳症の度合いを用いた分類にてA・B・Cに分類します。その後、肝臓以外への転移や血管やリンパ管、胆管などへの浸潤の有無を確認します。それらを踏まえた上で、肝がんの数や大きさによって治療法を決定していきます。

実際の治療ではご年齢や体力、基礎疾患などによりこれらと異なるケースもございます。肝がんが見つかった場合は、しっかりと精査し、主治医と相談して最も適した治療を行っていきましょう。

《著者紹介》

新聞 淑雅 (しんま よしまさ)



東海大学医学部消化器内科助教
1978年生 東京都出身
2004年法政大学工学部情報電子工学修士課程修了
2014年 東海大学医学部卒
2014年~2016年 東海大学医学部付属病院 初期研修医
2016年~2018年 東海大学医学部付属病院 消化器内科入局
2020年 東海大学医学部付属病院 助教

